

## 小学校第6学年 社会科学習指導案

小単元：天皇中心の国づくり(配当7時間)

### 聖武天皇と遣唐使船 (6/7)

#### ◆目標

- 聖徳太子の行った国づくり、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営にかかわる人物の働きや代表的な文化遺産を通して、天皇中心の政治が確立されていった過程が分かるとともに、それらにかかわる人物の願いや働き、代表的な文化遺産の意味を考えようとする。
- 聖徳太子の行った国づくりや隋とのつながり、大化の改新、聖武天皇が世の中を安定させようとしたことなど大仏造営にかかわる人物の働き、代表的な文化遺産などから学習問題を見だし、文化財、地図や年表、その他の資料を活用して調べてきたことをまとめるとともに、天皇中心の政治が確立されていった過程、それにかかわる人物の願いや働き、代表的な文化遺産の意味について思考・判断したことを適切に表現する。

#### ◆評価規準

##### ○社会的事象への関心・意欲・態度

- ①聖徳太子の行った国づくり、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営にかかわる人物の働きや代表的な文化遺産に関心をもち、進んで調べようとしている。
- ②天皇中心の政治が確立されてきたことに対して、事実や事象を関連づけ、調べようとしている。

##### ○社会的な思考・判断・表現

- ①天皇中心の政治を確立するために、聖徳太子、中大兄皇子、聖武天皇がどのような政治を行ったのかについて、学習問題や予想、学習計画を考え、表現する。
- ②聖徳太子の国づくりや大仏造営と大陸文化の摂取とを関連づけたり総合したりして、天皇中心の国づくりへの願いや働き、代表的な文化遺産の意味を考え、適切に言語などに表現している。

##### ○観察・資料活用の技能

- ①文化財、その他の資料を活用して、世の中のできごとと、それにかかわる聖徳太子や聖武天皇などの働きや代表的な文化遺産について、必要な情報を集め、読み取っている。
- ②調べたことを白地図や年表、作品やノートなどにまとめている。

##### ○社会的事象についての知識・理解

- ①聖徳太子の国づくりは、中大兄皇子や中臣鎌足によって受け継がれ、聖武天皇のころには、天皇を中心とし、仏教の力を借りた政治の仕組みが確立されたことが分かっている。
- ②聖徳太子や聖武天皇は新しい国づくりのために大陸との交流を進め、大陸文化などを積極的に取り入れていたことが分かっている。

この単元では、7時間扱いのうちの6時間目に、遣唐使たちが命がけで海を渡ったことに関連させて、遣唐使船の造りや航海技術の観点からそれらのことが理解できるよう、資料を少し付け加えました。

時間数を増やすことなく指導できるよう、工夫しています。



Copyright © 2008 kids magazine all rights reserved

◆指導・評価計画（各時間）

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・内容	◆指導上の留意点	☆評価計画
学習問題をつかむ	<p>①法隆寺と聖徳太子 p. 26～27</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     世界文化遺産の法隆寺を建てた聖徳太子は、どのような世の中をつくらうとしたのでしょうか。 (1時間)                 </div>	<p>○昭和の大修理の様子の写真や現在の写真、宮大工の西岡常一さんの話などを基に、法隆寺について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法隆寺は1300年以上前に聖徳太子によって建てられた、現存する世界最古の木造建築で、世界文化遺産に登録されている。</li> <li>・多くの人の努力によって今に残っている。</li> </ul> <p>○法隆寺を建てた聖徳太子が行ったことについて調べ、その内容や目的について関心をもち、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天皇中心の国づくりを行った。</li> <li>・冠位十二階を定め、能力や功績で役人を取り立てた。</li> <li>・十七条の憲法を定め、政治を行う役人の心構えを示した。</li> <li>・仏教を人々の間に広めようとした。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     聖徳太子は、冠位十二階や十七条の憲法を定め、法隆寺などを建てて、仏教の教えを広めようとした。①                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆資料から法隆寺の歴史的な価値について気づかせる。</li> <li>◆法隆寺の修理に関するエピソードを通して、西岡常一さんの思いや願いにふれさせる。</li> <li>◆聖徳太子はどのような国づくりを目指したのかを考えさせ、その業績に興味をもたせる。</li> </ul>	<p>☆〈関意態①〉 法隆寺や聖徳太子の業績に関心をもち、進んで調べようとしている。</p> <p>☆〈知理①〉 聖徳太子は、冠位十二階や十七条の憲法などを制定し、天皇中心の国づくりを進めたことが分かっている。</p>
	<p>②聖徳太子の国づくり p. 28～29</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     聖徳太子の国づくりについて整理して学習問題をつくり年表も活用して学習計画を立てましょう。 (1時間)                 </div>	<p>○聖徳太子の国づくりについて整理してまとめ、隋（中国）とのかかわりなどについて、分かったことや疑問に思ったことを話し合い、学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聖徳太子は、進んだ制度や学問が必要だと考え、小野妹子らを遣隋使として隋（中国）に送った。</li> </ul> <p>○学習問題について予想し、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べることをまとめて、ノートに書き出す。</li> <li>・自分の予想をノートに書く。</li> <li>・学習計画を立てる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     学習問題 聖徳太子がめざした天皇中心の国づくりは、だれが、どのように受けついでいったのでしょうか。                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆年表から、聖徳太子が行ったこと、聖徳太子の後、どのようなことがあったかを知り、調べることに見通しをもたせる。</li> <li>◆p. 29の「学習計画を立てよう」をヒントに、実際にどのように調べていったらよいか、調べる項目を立て、計画を立てさせる。</li> </ul>	<p>☆〈技能①〉 聖徳太子が行ったことや大陸との交流について調べ、資料から読み取っている。</p> <p>☆〈思判表①〉 聖徳太子の国づくりについて整理し、学習問題を考えている。</p>

<p>③大化の改新と天皇の力の広がり p. 30～31</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>聖徳太子の死後、だれが、どのような国づくりを進めたのでしょうか。 (1時間)</p> </div>	<p>○聖徳太子の死後、天皇中心の政治がどのように進められたのか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天皇をしのぐほどの勢力があった蘇我氏を中大兄皇子と中臣鎌足が倒した。</li> <li>・大化の改新によって中国を手本にした政治の仕組みがつくられた。</li> </ul> <p>○国を治めるためにどのような法律がつくられ、物の流通があったかについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国を治めるための法律(律令)ができ、租・調・庸といった税を治めることや、兵役の義務が人々に課された。</li> <li>・都には日本各地から産物が運ばれたことを、木簡から読み取る。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>中大兄皇子と中臣鎌足は、蘇我氏を倒し(大化の改新)、天皇を中心とする国づくりを進めた。国を治めるための律令もできあがり、都には日本各地から多くの産物が運ばれた。③</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆大化の改新について分かったこと、律令制度についての要点をノートなどにまとめさせる。</li> <li>◆藤原京や大化の改新が起こった場所などを地図で確認させる。</li> </ul>	<p>☆〈技能②〉</p> <p>天皇中心の国づくりを進めた中大兄皇子と中臣鎌足の業績や税について、資料を活用して調べ、ノートにまとめている。</p> <p>☆〈関意態〉</p> <p>天皇中心の政治が確立されていくことについて、進んで調べようとしている。</p>
<p>④仏教の力で国を治める p. 32～33</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>聖武天皇は、どのようにして世の中を治めようとしたのでしょうか。 (1時間)</p> </div>	<p>○都のにぎわいとそれを支える地方の人々の暮らしについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国の都にならってつくられた平城京。</li> <li>・平城京には役所が設けられ、多くの役人が働いていた。</li> <li>・都のにぎわいを支える地方の人々の生活は、重い税の負担で厳しいものだった。</li> </ul> <p>○聖武天皇が行った政治について、年表などを見て話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・政治の安定を求め、たびたび都を移している。</li> <li>・聖武天皇は国ごとに国分寺を建てた。</li> <li>・東大寺に大仏をつくる詔を出した。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>重い税の負担や災害によって人々の間に不安が広がる中、聖武天皇は政治を安定させるために都を移したり、仏教の力で社会の不安を少しずつ国を治めようとする願い、国分寺を建てたりした。④</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆にぎやかな都を支えるために、地方の人々が重い税で苦しんでいることを、前時に扱った律令制度と関連づけて考えさせる。</li> <li>◆聖武天皇の時代、社会に不安が広がっていったことを年表などから読み取らせる。</li> </ul>	<p>☆〈知理①〉</p> <p>聖武天皇が国分寺を建立したり、奈良に大仏をつくらせたりして、仏教の力で国を治めようとしたことを分かっている。</p>

<p>⑤全国から集められた人々が大仏をつくる p. 34~35</p> <p>聖武天皇は、どのような目的で大陸との交流を行い、日本は、どのようなことを学んだのでしょうか。 (1時間)</p>	<p>○聖武天皇は、どうしてこのような大きな大仏をつくったのか、聖武天皇の詔を基に話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人々とともに仏の世界に近づこうとした。</li> <li>・一人ひとりの力を集め、みんなで大仏をつくるのが平和につながる。</li> <li>・国中の力を集める。</li> </ul> <p>○大仏づくりに協力した行基の働きや、大仏づくりにかかわった人々について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行基は、人々のために橋や道をつくりながら仏教を広めていたので、「菩薩」とよばれていた。</li> <li>・すぐれた技術をもつ渡来人も大仏づくりに活躍した。</li> </ul> <p>大仏は、全国の国分寺の中心である東大寺に置かれ、のべ260万人の人々の力によって、752年に完成した。⑤</p>	<p>◆大仏づくりのために全国から人や物資が集められたこと、大仏のつくられた東大寺は全国の国分寺の中心であったことなどから、新しい国の政治が都から全国に及んだことに気づかせる。</p>	<p>☆〈知理①〉 天皇の命令によって、全国から人々や物資が集められ、大仏がつくられたことが分かる。</p> <p>☆〈技能②〉 大仏づくりについて、資料や教科書から調べたことをノートにまとめる。</p>
<p>⑥大陸の文化を学ぶ p. 36~37</p> <p>聖武天皇は、どのような目的で大仏づくりを行い、それは、どのように進められたのでしょうか。 (1時間)</p>	<p>○現在の客船が大型で快適であることと比べ、遣唐使たちが使った遣唐使船は遭難することが多かった理由を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遣唐使船は木造の帆船で風が吹かなければ進めないから。</li> <li>・エンジンがないため、台風など海が荒れたらどこに流されるか分からないから。</li> </ul>	<p>◆遣唐使船と現在の客船の造りや航海技術を比べ、遣唐使が命がけだった理由を理解させたい。</p>	
	<p>○遣唐使、留学生、鑑真などの働きについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遣唐使たちは、危険を乗り越え大陸へ渡った。</li> <li>・聖武天皇の願いを受けた鑑真は、何回も渡航に失敗しながらも来日した。</li> <li>・鑑真は、仏教の教えだけでなく唐招提寺を建てたり、薬草の知識を広めたりした。</li> </ul> <p>○聖武天皇が大陸との交流を進めた理由について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進んだ文化を取り入れ、よりよい国づくりを進めようとした。</li> <li>・日本に正式の仏教を広めようとした。</li> </ul> <p>聖武天皇は、新しい国づくりを行うために中国（唐）へ使者を送ったり、すぐれた僧を招いたりした。⑥</p>	<p>◆遣唐使たちが危険を冒しても大陸へ渡った目的に気付かせる。</p> <p>◆教科書の「鑑真の来日」から、鑑真の果たした役割について話し合わせたい。</p>	<p>☆〈知理②〉 聖武天皇が遣唐使や渡来人などを通して大陸の優れた文化を取り入れ国づくりに役立ったことが分かっている。</p>



青色の部分が、海上輸送に関連する内容です。  
この単元では、6時間目の「遣唐使」と関連させることで、無理なく、遣唐使船の造りなどに目を向けさせることができます。  
6時間目の詳しい流れは、6ページにある「本時の指導案」をご覧ください。

まとめる	<p><b>⑦まとめる</b> p. 38</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習問題について調べてきたことを項目ごとに整理して新聞にはり、社説に自分の考えを書いて完成させよう。 (1時間)</p> </div>	<p>○本小単元の「調べる」で調べてきたことを整理して、新聞にまとめる。 〈大化の改新〉蘇我氏を倒し天皇中心の新しい国づくりを始めた。 〈新しい都〉律令制度と重い税によって支えられた都のにぎわい 〈大仏開眼〉国中の力を集めてつくられた大仏 〈大陸文化〉遣唐使や留学生を通して、大陸から文化や技術を学んだ。</p> <p>○学習を通して考えたことを社説に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聖武天皇は、仏教の力で国を治めようとした。</li> <li>・進んだ文化を取り入れ、よりよい国づくりを進めた。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりは、中大兄皇子や中臣鎌足によって受けつがれ、聖武天皇のころには、仏教や大陸文化を取り入れた天皇中心の政治の仕組みが確立された。⑦</p> </div>	<p>◆今まで調べてきたことを項目ごとに整理し、それぞれにかかわった人々や具体的に行われてきたことを、「まなび方コーナー」の「新聞をつくる」の手順にしたがって新聞にまとめることができるようにする。</p>	<p>☆〈思判表②〉 今まで調べたことを比較したり、関連づけたり総合したりして、天皇中心の国づくりがどのように行われてきたか、表現している。</p> <p>☆〈技能②〉 聖徳太子や聖武天皇の政治、代表的な文化遺産などについて必要な情報を集め、読み取っている。</p>
ひろげる	<p>■よみがえる古代の迎賓館 p. 39</p>	<p>○中国や朝鮮との外交が盛んになり、使者をもてなす施設がつくられたことについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国や朝鮮に近い九州の福岡には、外国からの使者を迎えたり、遣唐使が出発などの準備をしたりする施設として鴻臚館があった。</li> <li>・1926年に中山平次郎がその存在を唱え、1987年に遺構が発掘された。</li> </ul>	<p>◆九州の福岡は、当時の外交の拠点であったこと。</p>	<p>☆〈関意態〉 外国の使者をもてなす施設の遺跡などについて、進んで調べようとしている。</p>

※東京書籍教科書平成27年度用『新編 新しい社会』6年上単元指導計画より

## ◆本時指導案 聖武天皇と遣唐使 (6/7)

### (1) ねらい

聖武天皇は、新しい国づくりをするために、遣唐使や渡来人などを通して、大陸の文化を取り入れようとしたことことを調べる。

### (2) 展開

過程	○学習活動 ・ 学習内容	◎資料 ◆指導上の留意点
導入	<p>○現在の客船は大型で安全に航海できる造りになっていることを、資料を基に確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大型で頑丈に造られていて、快適そうだ。</li> </ul> <p>○聖武天皇が送った遣唐使たちが使った遣唐使船は遭難することが多かった理由を、資料を基に話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遣唐使船は木造の帆船なので、風が吹かなければ進めないからではないか。</li> <li>・エンジンがないため、台風などで海が荒れたらどこに流されるか分からないからではないか。</li> </ul>	<p>◎写真「現在の客船の様子」</p> <p><b>資料 1</b> 「ぼくとわたしのシップガイド」より「客船」</p> <p>その他 例 日本外航客船協会  <a href="http://www.jopa.or.jp/ships/ships.html">http://www.jopa.or.jp/ships/ships.html</a></p> <p>◎写真「遣唐使船」 <b>資料2</b></p> <p>◆現在の客船の造りなどと比べ、遣唐使船が遭難しやすかった理由を考えさせたい。</p>
	<p>○遣唐使たちが危険を乗り越え大陸へ渡った理由を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・命を懸けてでも中国で学びたいことがあったのではないか。</li> </ul>	<p>◎図「遣唐使船の推定航路」 <b>資料 3</b></p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>聖武天皇は、どのような目的で遣唐使を送り、どのようなことを学んだのか調べよう。</p> </div>		
展開	<p>○遣唐使、留学生、鑑真などの働きについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遣唐使は1回約500人で、15回派遣された。</li> <li>・一隻に120人から150人が乗り、4隻で航海した。</li> <li>・風が吹かないと1年も待たされることもあった。</li> <li>・聖武天皇は、皇帝中心の中国の政治の仕組みを日本の新しい国づくりに役立てようと遣唐使を派遣した。</li> <li>・正式な仏教を広めたい聖武天皇の願いを受けた鑑真は、何回も渡航に失敗しながらも来日した。</li> <li>・鑑真は、仏教の教えだけでなく、唐招提寺を建てたり、薬草の知識を広めたりした。</li> <li>・留学生は中国の進んだ政治の仕組みや文化を日本に伝えた。</li> <li>・遣唐使を通して中国や朝鮮半島から優れた学者や技術者が来日し、日本に優れた文化や技術が伝えられた。</li> <li>・西アジアなどの遠いところから伝わった琵琶や器などが日本にもたらされ、正倉院に宝物として保管されている。</li> </ul> <p>○聖武天皇が大陸との交流を進めた理由を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国の進んだ政治の仕組みや文化を取り入れ、よりよい国づくりを進めようとした。</li> <li>・日本に正式の仏教を広めようとした。</li> </ul>	<p>◎教科書や資料集で、写真を提示する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真「鑑真和上」</li> <li>・写真「唐招提寺」</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真「正倉院の宝物」</li> <li>・写真「大極殿」 <b>資料 4</b></li> </ul>
まとめ	<p>○本時の学習をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聖武天皇は、中国の進んだ政治の仕組みや文化を学びよりよい日本の国づくりのために、遣唐使を派遣した。</li> <li>・遣唐使を通して、中国や朝鮮半島から優れた技術や文化が運ばれ、日本に伝えられた。</li> </ul>	<p>◆日本の歴史において遣唐使が果たした役割について考えさせるようにする。</p>

資料1 現在の客船の様子

## 客船

「客船」は、旅をする海上のホテル。  
1泊だけの「ワンナイトクルーズ」から、  
約100日間もかかる「世界1周クルーズ」まで、  
世界中でいろいろな船旅が楽しめるんだよ！



郵船クルーズ「飛鳥II」

**レストランやカフェ**

食事は旅の楽しみ。船内のあちこちに、おいしいレストランやカフェがあります。



**お風呂**

海をながめながら、のんびりバスタイム。



**プール**

船の上のプールでひと泳ぎ。



**ホール**

ステージで、ミュージカルやコンサートが開かれています。



**客室**

お部屋でのんびり。





飛鳥II

**ダンスフロアやバー、映画館**

船のなかには、旅のあいだに遊びきれないほどの楽しい場所がたくさん。



**フィンスタビライザー**

船を安定させるつばさ。つばさの角度を調節して70~90%のゆれをおさえるから、海の上でも気持ちよく過ごせます。



日本を代表する客船「飛鳥II」なら、客室が436室も！  
船を動かす人や、食事のサービスをする人など合わせて約470人のクルー（船員）が働いているよ！



おしゃれて乗りたいわ♪



## 資料2 遣唐使船



## 資料3 遣唐使船の航路



「遣唐使の推定経路」

小学館 『日本大百科全書 (ニッポニカ)』 「遣唐使」より



資料4 復元された平城宮最大の宮殿「大極殿」



平城宮跡歴史公園 ホームページより

[https://www.heijo-park.go.jp/area/daigokuden/daigokuden\\_midokoro/#midokoro01](https://www.heijo-park.go.jp/area/daigokuden/daigokuden_midokoro/#midokoro01)